

編集室から

令和三年度がスタートして一月。早速、県外出張が始まりました。能登の自宅には、八十を超えた丈母が居るので、出張後は金沢の事務所にて二週間の自主隔離をしていました。ところが、今後は仕事で県外に出ることが増えそうなので、自主隔離だけだと数ヶ月間、自宅にすら帰れないという状態に陥りそうです。

そこで、苦肉の策として新型コロナウイルスの変異株にも対応しているという抗原検査キットを入手し、自主的に調査ができるよう、体制を整えました。

抗体検査は、これまでの感染の有無を調べるもので、抗原検査は、検査時点での感染の有無がわかります。いずれも結果が10分程度でできるのですが、精度的にはPCR検査には及ばない模様です。あくまで研究調査目的であることが、製品に明記されていること、結果ができるまで時間を要するPCR検査に、厳密には拠った方が善いようですが、それでも100%の検出率ではないことを踏まえると、どこまでで良しとするか、現実的な判断が求められるようです。

経済的・現実的な面を考慮すると、感染＝悪ではなく、重症化こそが悪であると考えようになりました。感染即悪と考えていると分離意識が働き、感染者へのいじめに走ってしまい易くなり、そちらの社会悪の方が問題です。

一方で、免疫力を高める努力をするなど、自分は重症化しないよう務めることはできても、家族を含めた周囲の第三者にうつして重症化へ至らしめてしまう可能性は残されています。この点が非常に悩ましい問題です。

緊急事態前言が何度も発出・解除を繰り返していると、民衆の意識は狼と少年状態に陥ります。身近な大切な人を重症化させないために、何ができるのか、常に考えられる世の中であってほしいと願うばかりです。(は)



のと
だらぼち

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川島さんが「能登だらぼち」を引き受けて改装開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

のと だらぼち
03-5537-3078
17:00~23:00 日曜祝休

中央区銀座8-4-27
プラザ銀座ビル地下1階
(銀座外堀通りasics前)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2021/05
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217
Fax 076-233-7375
Email usric@neting.or.jp

2021/05
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

泉 月



石川県薬師の里にて
by hama

四月二十日にファイザー社製の新型コロナウイルスワクチン(写真)が届き、早速五名の七十五歳を超える方々に接種を行いました。そして翌二十一日には、遅れていた医療者向けの接種をようやく受けることが出来ました。今回は接種をする側とされる側を経験して、思うところを述べさせていただきます。

まず、接種をする側としての感想です。ワクチンは届いた時点で既に溶解していて、少しドロツとした液状になっていました。慣れ親しんだインフルエンザワクチンだけでなく、肺炎球菌ワクチンや麻疹風疹ワクチンとも全く違います。不安定で極めて壊れやすいメッセンジャーRNAを守るための、特殊さを感じられました。扱い方も、細心の注意が必要でした。室温に二十分ほど置いたのち、一緒に届いた注射器と針を使い同じく同封されていた生理食塩水で希釈して0.3ccずつシリリンジに詰めました。攪拌はゆっくり優しくすること、急な温度変化は避けること、そしてマニュアルをよく見ると遮光の指示まで書かれています。慣れたら違ってくるのでしようが、準備の段階は普段のワクチン接種に比べると五倍くらい神経も時間も使いました。

ただ準備を終えてしまうと、あとは拍子抜けするほどスムーズでした。まず筋肉注射ですが、日頃する機会が少ないだけの話で、やってみれば楽です。針は皮下注射より少し太くなりますが、垂直に針をたててスッと皮膚を貫通させれば切れが良いぶん逆に痛みは少ないくらいです。インフルエンザなど殆どのワクチンは、皮下注射です。皮下に充満している脂肪細胞を引き裂くように薬液が入るので、どうしても

痛みが生じます。それに対し筋肉は血流が豊富で水分が多いため、一気に薬液を注入しても抵抗がなく痛みもありません。万一のアナフィラキシーショックに対しては、どの現場にもアドレナリンが準備されシミュレーションも繰り返されている筈です。

次に、接種を受けた立場としてです。予想通り、注射の痛みは全くありませんでした。翌日になっても、熱も腫れも痒みもありません。軽いシコリを筋肉内に感じるくらいです。これを書いているのは接種四十時間後くらいですが、日頃と全く変わることのない生活をしていました。

ただ、気分は少し変わりました。接種を受けるまでは、「接種まで粘って乗り切れば光が見える」と自分に言い聞かせてきました。少しはホッとするのでは、と思っていたのです。しかし、むしろ逆になりました。ワクチン接種で抗体が出来たとしても、事態は変わらないのです。それは、インフルエンザワクチンの経験から判っていたはずの事です。ワクチンが効いて抗体が出来たとしても、それは感染しなくなる訳ではありません。軽く済んで、早く元気になるだけの話です。今回の新型コロナウイルスの方が、遙かにしぶといウイルスです。私が無症候の感染源になる危険性は、多少は下がるもののゼロにはなりません。社会の集団免疫が成立して感染が終息を迎えるまでは、マスクと手洗いと自粛の生活を変えてはいけません。改めて、そう思いました。



【プロフィール】
（い）がき としお（金沢大学北潟寮で、濱さんの二年後輩でした。濱さんは、とつても怖かった…。卒業後は金沢を離れ、現在は温暖な讃岐高松で又ク又クしています。）

濱の起業塾 廿五『概論⑦』

起業家は「俺のアイデアは凄いだろう」という意識レベルで心底からの応援が得られると思えるだろうか。「夢を現実に変えた」のは、一人の起業家から始まった物語であったとしても、彼の想いを支えた多くの仲間が居たからではないか。そう気づくと自ずから感謝の念、仲間へのリスペクトが生まれはしまいか。

ある組織論によると、企業には三種類の人間(職域)しか無いそうである。上位から順に・Visionary・Explorer・Worker。初見では階級意識を感じて違和感があったが、役割分担として捉えると実に的確な指摘であると思う。曰く、構想する人・探索する人・現実化する人である。

今でこそ、広い世代で使われているスマホも最初は、天才的ビジョナリーであるステイブ・ジョブスの頭の中にイメージとして登場した。だが、どうやったらそれを実現できるか彼には分からない。多くのスタッフが方法論を探索し、設計・調達・製造委託・製造手順整備などの現実化を支えた。その上

で製造現場で忠実に作業をこなす人々の手によって、最終的な製品として、我々の手元に届けられている。

ビジョナリーによるビジョンが存在しなければ、探索すべき方法論は無く、現実化の作業工程も無い。一方で、ビジョンだけ存在していても、協力する方法論探索者・現実化作業者が居なければ、ただの絵空事に終わってしまう。優れた起業家は、優れたビジョンの提示にとどまらず、そのビジョンに共感・共鳴し、協力を惜しまない探索者・実務者が広く集う人となる必要があるのではないか。

だからこそ、共に取組む仲間こそが尊い。「会社の神棚に参するのは、自らの経営の事でなく、社員とその家族の安寧の為である」と仰っていた経営者の方の想いは、そこにあるに違いない。

つまり、起業活動の真髄は、起業家のスキルや起業のタイミングではなく、起業家の人間性を進化させる過程なのかもしれない。

まして、地域の課題を解決しようとする社会起業の現場では、「地域の課題や難局をみんなで乗り越えよう！」と呼びかけ、そのためのムーヴメントを起こすことでもある。この意識、意義を持っているか？ますます起業家の芯が問われることになるか？思っている。

2020年の死亡数は0.7%減で11年ぶりの減少となった。なぜそのような結果になったのかを、死因別に考察する。

2020年の新型コロナウイルス感染症による死亡者数は、3,500人弱であった。2019年には確認されておらず、まずこの分が純増となる。一方、季節性インフルエンザウイルス感染症による2020年の死亡数は、2019年と比べて約2,600人減少すると思われる¹。これを控除すると約900人増となる。この数が概ね、感染症を直接の要因とする死亡の増減とみなすことができよう。

感染対策の徹底により、インフルエンザの流行は強く抑えられ、2021年1～4月は引き続き対前年比でマイナスが見込まれる。一方でコロナによる死亡者数は、2021年の4ヶ月弱で2020年の年間死亡数の2倍に迫る勢いであり、今後の推移を注意深く見ていく必要がある。

肺炎での死亡数を、公表されている1～11月のデータで比較すると、2020年は2019年と比べて約15,600人の減少となった。年換算で約17,000人減となる。この肺炎での死亡者数の大幅減が、全体での死亡数の減少につながったと思われる。新型コロナと季節性インフルおよび肺炎が医学的にどのように関連し、そして死亡へとつながっていくのかは、専門家の分析を待ちたい。

病気以外での死因もいくつか見ていきたい。

交通事故死者数は約400人の減少。外出自粛等により交通量が減ったためであろう。他殺での死亡数には概ね大きな変化がみられない。

最後に自殺者数について言及せねばならない。最初の緊急事態宣言が出された4,5月においては、行動制限とそれに伴う閉塞感及び厳しい経営環境にもかかわらず、自殺者数は減少した。比較的短期間であったこと、社会の分断がそれほど進んでいなかったこと、そして雇用調整助成金等の施策により、生活困窮者を含め多くの国民が耐え忍ぶことができたものと推測される。一方でその後、6月から女性が、8月から男性が前年の水準を上回るようになり、それが年末まで続いた。その結果、男女合計でリーマン・ショック後の2009年以来11年ぶりに増加に転じた。年間で男性が微減となったのに対し、女性の自殺者数は14.3%の大幅増となった。健康問題、生活苦、家庭問題等の、原因・動機の詳細な分析が待たれる。

注1) 2020年12月のデータは未公表だが、例年と比べて極めて少ない感染状況から死亡数も極めて少ないものと推測

「小さなまち(10万人未満)」ランキング(2020年)

○若者世代が住みたい田舎部門

第1位:大分県臼杵市 第2位:島根県飯南町 第3位:長野県飯山市

○子育て世代が住みたい田舎部門

第1位:大分県豊後高田市 第2位:大分県臼杵市 第3位:島根県飯南町

「小さなまち(10万人未満)」ランキング(2021年)

○若者世代が住みたい田舎部門

第1位:大分県豊後高田市 第2位:島根県雲南市 第3位:大分県宇佐市

○子育て世代が住みたい田舎部門

第1位:大分県豊後高田市 第2位:大分県宇佐市 第3位:島根県雲南市

『小さな市』ランキングでも、大分県豊後高田市が全ての部門で1位に選出され、9年連続でベスト3入りのおよびです。充実した移住・定住支援や、6つの温泉が身近にある環境、地域の人と移住者の交流が盛んな点などが魅力となったようです。選ばれる理由としては

- ・子育て応援誕生祝い金が最大100万円
- ・給食費の完全無料化(幼稚園、保育園、小中学校)
- ・高校生までの医療費無料化
- ・保育料、幼稚園授業料完全無料化
- ・妊産婦医療費の無料化

完全に子育て世代の取り込みが狙いです。

また「昭和の町」として街並みの保全に力を注いでおメディアでの露出が高いのも理由の一つではないでしょうか。

とまあ昨年と変わらず西高東低であるということと、コロナ禍云々での顔ぶれの変化はなく、やはりその地域に魅力があり、本気で取り組んでいる自治体が相変わらず強いといった感じです。前回になぜ九州・瀬戸内が強いのかについて「温暖な気候」という一言で片づけてしまいましたが違いました。台風、地震、線状降水帯などこの地域は毎年なにかしらの災害が発生します。ではなぜ？簡単です。本気なんです。役人も住んでいる市民も本気で外から人を呼び込もうとしている。上位ランクされている自治体のホームページを見てください。ランク外の自治体のホームページと比較すると一目瞭然です。ターゲットはどこか？ターゲット層は何を知りたいか？またはどこに不安を抱いているのか？どこに相談すればいいか？等々がわかりやすく表現されており、移住政策が市政の柱であることが伺えます。

しかし、ここで気になったというか僕の中での移住政策に関する意義について疑問が生じました。1カ月分ではまとまらないのでこの続きはまた次回でお願いします。

『相模の国から ～大魔神のたび～ 』南足柄市に来てからのこと
神奈川県南足柄市企画部・都市部・教育部参事 溝口 久

ここ南足柄市に来て7ヶ月が経った。何やっているの？何かできた？とせつかな輩から問われる。「すでに5000万円以上の効果は出していますよ」と答えている。

開発に伴い洪水防止のために設けなくてはならない調整池がある。大雨の時にはもちろんその機能を果たすが、余程の大雨でなければ水が貯まることはない。普段は草がぼうぼうとはえていて、そのままにはできないから、市ではその除草に300万円も使っている。調整池をフットサル場に、フリーマーケットの会場に、駐車場にとアイデアはいくらでもある。でも、雨水がたまり排水後には泥が堆積するような場所に税金を投入して整備するとなると抵抗に遭うことは見えている。ならば、調整池の機能を百も承知で利用してくれる人いないか？って、もし手を上げてくれる人がいたら儲けもので募集した。ありがたいことに2者から手が上がった。一者は「地域の課題を解決します」を使命に立ち上がったNPO法人あしがらパートナーズで、「蕎麦畑にする」と言う。収穫の暁には南足柄産蕎麦で売り出すとのこと。ただこの地、石が多くて畑として使うことに難航、なかなか思うようにはいかない。さて、どうなっていくのか、南足柄産そば粉が道の駅「足柄・金太郎のふるさと」に並ぶことを夢見ている。



もう一者はドローンビジネスを繰り広げる(株)コヤワタオフィスだ。調整池をドローンの教習場として使うとのこと。これを機会に災害時のドローン調査、観光プロモーションビデオの制作に協力が得られそうだ。もちろん、市の除草予算300万円弱が浮いたことは言うまでもない。

次のプロジェクトは大事業、子育て支援拠点整備事業である。市はネウボラというフィンランド語で言う「助言の場」を整備することになっている。母親の妊娠期から子供の小学校入学まで、担当の保健師が子育てに関するあらゆる相談にワンストップで応じる仕組みだ。妊娠中に約10回、産後に15回程度の定期健診や発達相談を受ける。このネウボラに子育て支援センターを併設する。入学前の児童と親御さんが一緒に来て遊ぶ場の提供や、子育てアドバイザーが育児不安についての相談指導や子育て情報の提供、子育てサークルの育成支援等を行う施設だ。この二つの機能を合わせた子育て拠点をつくるというのが市の総合計画だ。昨年秋に市の中心部、大雄山駅前にある再開発ビルの3階に入居していた衣料品店が退去した。このところの小売店も飲食店も元気ないから空スペースがそこそこ生まれている。空き室が目立ち始めると集客力が落ちてくるから、他の店舗にも悪影響を及ぼす。

地方都市にとってスーパー、百円ショップ、ドラッグストアは生活インフラと言っても過言ではないから、こちらの撤退につながるとダメージは大きい。

そこで、2,000㎡超の面積を持つこのフロアに子育て支援拠点を持ってこようというもの。ここ半年に生まれた動きだ。新築なら試算で7億円だ。室内の改修なら8,000万円ぐらいでいきそうだ。この発意に地方創生拠点整備交付金の存在はありがたい。女性活躍社会、コロナ禍にあって時流に乗る企画にしないといけない。そこで、コワーキング、こども食堂対応キッチン、子育て向けテナントスペースを組んだプランを提出し、半分の4,000万円程の補助金をゲットできた。この手の仕事は小山町時代にさんざんやってきたので、何の抵抗もない。当時の戦歴は6勝1敗。町営ロケスタジオ、子育て支援センター、パークゴルフ場クラブハウス、道の駅レストラン増築、農村活性化センターの一部をパン工房に改修、BBQガーデンを実現させた。

今年度は運動センターのサッカー場の人工芝化、アリーナ内部の改修、子育て拠点整備にと、このところ殆ど公共工事の無かった南足柄市が突然動き出す。完成の暁にはご案内できそうだ。

「流しの公務員」に残された任期は2年を割っている。小山町時代の時のように、即決、即アクションという訳にはいかないけど、しばし頑張ってみたい。

